



カンボンビジット

近藤 理紗

4泊6日のマレーシア研修を通じて、JICA マレーシア事務所見学を始めとする日本の国際協力の現場を見ることが出来たことは、自分にとって有意義で貴重な経験であった。さらに、マレーシアや発展途上国が抱えている課題についても考えさせられるきっかけとなった。その一つがカンボン（村）ビジットで見られる「push & pull ファクター」だ。

カンボンビジットでは、天然ゴム農園で、ゴムの木から樹液採取を行う様子を見学した。その際にそこで働く方から「若者離れにより、人手不足が問題となっている。それを解決するためにバングラデシュやネパールから、労働者の受け入れを行っている」と聞いた。日本では、マレーシアから、技術員や労働者を呼び寄せている。そのマレーシアでは、若手人員が他国へ流れてしまうため、マレーシアよりもさらに貧国から労働者を呼び、人材不足を補わざるを得ないのだ。つまり、上位国の産業で発生する「負」の部分をより貧しい国の人々が担っているのだ。これにより、下の階層にいる国は、よりよい働き先を求めて一つ上の階層の国へと若手を送り込む(push)。受け入れ国側は人材を奪ってしまうことになる(pull)。この push & pull ファクターにより、発展途上国での発展が進まないという負のスパイラルに陥っている。

これは、日本で普通に生活しただけでは見聞きすることのできなかった現実である。マレーシア、そして発展途上国にとっての真の援助とは何か、考えさせられた。